

【議会報告会】

○119 番通報から病院到着までの時間の短縮について、市民全体が A E D 装着や胸骨圧迫、心肺蘇生の手法について研修を受けるべきではないか。

⇒議員 A E D の使用法等に関する講習会は、学校等では非常に盛んにおこなわれている。また、市民も地域の自主防災組織等の取り組みの中で行っているが、十分ではないと感じている。蘇生術に関しては、I L C O R（国際蘇生協議会）が 5 年ごとに見直しを行っているため、一度受講したことがあるとしても、5 年に 1 度は最新の手法を学んでいくべきと考えている。

○緊急輸送道路の機能確保に関連し、県道である環状 1 号線の整備が進んでいないために河原田地区から小山田方面への通行が不便である。避難路としては非常に重要となると考えるため、早急に整備すべきと考えているが、三重県からは、まず県道四日市鈴鹿線の整備が優先であり、その後の道路整備については市の考え方によると聞いている。市としても早期に当該道路の整備が完了するよう、県に要望してほしい。

⇒議員 環状 1 号線については、四日市市と旧楠町の合併の際にも早期の整備を県に対して要望している道路であるが、計画地にオオタカの営巣が確認されたことで中断となった経緯がある。このことを受け、河原田町や楠町など南側から道路整備を進める計画もあったと聞いているため、整備を進めてほしいとは考えているものの、県の予算の制約からなかなか実現に至っていないのが現状である。改めて地域の意見が確認できたことを踏まえ、市からも三重県に対し、当該道路の早期整備を求めていくよう意見していきたい。

⇒議員 環状 1 号線については、波木南台以南の整備をようやく再開したところである。三重県の説明には逃げの姿勢を感じるが、早期整備は河原田地区住民の悲願であると認識しており、県・市・地域住民が協議の上事業を進めていく必要がある。いただいた意見は、所管の都市・環境常任委員会に伝えることとする。

○現在、寺方町において、総合防災拠点の整備が進められている中、第 1 次緊急輸送道路は沿岸部に偏っているが、考え方を確認したい。

⇒議員 第1次緊急輸送道路の指定には偏りがあり、特に南西部は手薄であると感じている。この点については分科会においても議論を行い、緊急輸送道路の指定に係る見直しについて、三重県とも協議すべきとの提言を行っているため、まずは市の対応に期待したい。

○国道1号は慢性的な渋滞が続いており、その状態で大地震が発生した場合、車両同士の衝突が発生し、第1次緊急輸送道路といえども使用できなくなる可能性が高いと考える。道路を指定するだけでなく、こうした場合にどのように対応するのかを検討しておくべきである。

⇒議員 緊急輸送道路の意義や役割については議員も含め、市民は十分に知らない状況である。緊急輸送道路では災害発生時にどのような対応をとるべきであるのか、また、どの道路が緊急輸送道路であるのかなどを市民に効果的に啓発していく必要があると考えており、市長への提言にも盛り込んだところである。どこが緊急輸送道路に当たるのかは、看板等を用いて周知することも有効であるとする。

○南部拠点防災倉庫の上には電線が張り巡らされている。市としては、ヘリコプターでの物資の運搬は想定していないとのことであるが、仮に周辺道路が使えない場合、ヘリコプターに頼らざるを得ないと考えるため、現環境は非常に危険であると感じている。

⇒議員 ご意見として承る。

【シティ・ミーティング】

《テーマ：シティプロモーションについて

～市外から人を呼び込むため、あなたならどうしますか～》

グループAにおいて出された主な意見

①四日市市の魅力に関して

○ふるさと納税について、市民が他の市町村へ寄附を行った金額が、本市に寄附のあった金額を大幅に上回っているとのことである。ここにゆうどうくんばかりに頼るのではなく、本市として何らかの目玉商品を見出し、発信していく必要があるのではないかと。

○人口10万人規模でそれほど目立った産業のない泉佐野市がふるさと納税で多くの寄附額を勝ち取った。総務省の対抗措置に対しては、裁判で争う姿勢も見せており、四日市市

も泉佐野市の姿勢を批判するだけでなく、見習うことも必要である。

②四日市市を訪れたいまちとすることに関して

○本市に人を呼び込むためには、「四日市」の名のとおり、フリーマーケットの充実など、市場関係の事業に力を入れるべきである。また、本市の課題として、JRと私鉄の駅が離れた場所にあるという特異な環境があり、ショッピングセンターの郊外への散在も相まって、現在は中心市街地がさびれている状況である。かつての駅前商店街は非常に賑わっており、何とかかつての賑わいを取り戻したいと痛烈に感じる。

○生桑町に新たに整備された温浴施設が高校生から非常に人気があるとのことである。当施設の有効活用により、本市に県外の高校生等を呼び込むことにつながるのではないか。

③四日市市を住みたいまちとすることに関して

○本市は桑名市等に比べて自治会への住民のかかわりが大きいと聞く。自治会等での地域のしがらみを将来に背負わせることを嫌い、親が子供たちの地域外・市外への転居を促している例も多いと感じている。

○住んでいる地域の中学校は、学力テストの結果が全国平均よりも低いと聞いているが、親としては我が子をより教育レベルが高いところに行かせたいと考えるのが通常である。また、本市には核となる商業施設がなく、中規模のショッピングセンターが郊外に散在していることも住みにくいと感じられる要因ではないかと考える。様々な要素が絡み合って人は集まるが、産業・教育の充実がもっとも重要な要素と考えている。

○九州の炭鉱が閉山になり、四日市コンビナートに多くの人 flowed ことで本市の人口が飛躍的に増えたと記憶している。このことから、コンビナートの復活による働く場の確保が重要と考える。

○「子育てするなら四日市」とは言うものの、市街化調整区域における土地の利用規制等により、子育て世帯が実家近くに簡単に家を建てられない例があることも課題であると考え。

○本市は県内でもっとも人口が多く、今以上に人口を増やすことに意味を感じない。また、本市には目立った観光地もない中、専門の部を設置し、シティプロモーションに取り組むことには疑問がある。多額の経費をかけてプロモーションビデオを制作したものの、再生回数は伸びず、職員も視聴していない状況では無駄であると言わざるを得ない。こ

のような状況では、シティプロモーションにかかる経費を高齢化対策、交通渋滞対策、減税や水道料金の軽減、害虫駆除のための防護服の貸出しに活用するなど、弱者の生活を救う観点から政策を展開し、少しでも本市を住みやすくして人口の維持につなげていく方がよっぽど意味があるのではないかと感じる。

グループBにおいて出された主な意見

①四日市市の魅力に関して

- 県外へ出るといまだに本市には公害のイメージが根強いことを感じる。本市で生まれ育った身としては、現在の環境が当たり前となっており、どこに魅力があるのかを明確に答えられないが、子供の頃には現在の中心市街地について、「四日市のまち」としての憧れがあった。現在では、鈴鹿市のサーキット、桑名市の長嶋温泉や石取祭に比べて、本市は目玉となるものがなく、若者を引っ張り込む力がないと感じる。
- 萬古焼には四日市の名前がついていないため、本市が生産地であることを知らない人も多い。萬古焼の抹茶茶碗・茶釜と水沢のお茶を用いて、小学校の授業の中で茶道実習を行えば本市のアピールになるのではないかと感じる。
- かつて公害の要因ともなっていたコンビナートを、夜景の名所としたことは好事例であり、このような逆転の発想は重要であると考え。河原田地区の地域資源は限られているが、みかん畑への竹の侵食が課題となっているため、この竹を有効活用すべく取り組んでいる。

②四日市市を訪れたいまちとすることに関して

- 旧東海道には、他市町からの観光客も訪れるが、国道1号の渋滞が原因で迂回する車がスピードを出して走行するため非常に危険である。11月には泊の商業施設のリニューアルオープンもあることから、この状況が悪化することも想定され、せつかくの歴史を味わえる場所が台無しになるのではと危惧している。

③四日市市を住みたいまちとすることに関して

- 本市の中心市街地は、かつて大型店舗があり、非常に集客力もあったが、現在では昼間の目玉がないと感じる。商店街等と連携し、親子連れが遊びついでに寄れる場所を増やして人を集めることが重要であると考え。また、夜についても新しい店ばかりが目立

つが、もう少し昔ながらの横丁のような飲み屋街があれば、自然と人が集まるのではないかと。

- 市長は子育て中の若い世代の流入を狙っているようだが、そのことだけでは市民はついていけない。市内の多くの高齢者が活躍でき、元気に過ごせるような場所づくりなど、現在住んでいる市民の元気につながる施策も必要である。
- 日永地区にはこれまでの開発の経緯から小さな子供の遊べる公園等が身近にはない。子供を連れて遊びに行ける場所が近くにないことは、若い人に本市に魅力を感じてもらえない要因となり、課題であるとする。

④その他

- 温暖化による海面上昇により、将来的には現在の市役所がある地点も浸水の危険がある。100年後の四日市市を考えれば、中心市街地を西の方へ徐々に移転していく必要性も感じており、そのような視点も踏まえて今後のまちづくりを考えていくべきである。